

派遣報告書

平成31年3月28日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 米田 勝彦



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1 派遣期間 ■平成31年3月25日(月)から平成31年3月27日(水)まで

2 派遣先 ■ハウステンボス(株) : 長崎県佐世保市ハウステンボス町6-5
やまさ海運(株) : 長崎県長崎市古町1
平戸市役所 : 長崎県平戸市岩の上町1508-3

3 視察(調査)議員名 米田勝彦・佐々木敬敏

4 面会者 ■別紙「名刺写し」のとおり

5 派遣目的 ■人口減少社会におけるロボットの活用について
於ハウステンボス「変なホテル」

■観光資源の活用について
於やまさ海運(株)事務所

■平戸観光応援隊および平戸市内周遊定期観光バスについて
於平戸市役所

6 視察の経過及び感想

■別紙「視察の経過・感想」のとおり

7 添付書類

■別紙「視察先提供資料」

(1)

(2)

要した経費： 2人合計 176,040 円

平成31年3月25日(月) 14:00~15:30

○ <人口減少社会におけるロボットの活用>
於 ハウステンボス「変なホテル」*
①

視察目的

- 人口減少社会においてロボットはどのように活用されるのか学ぶため

視察経過

* 以下の番号は、右の写真の番号

- ① ■ ハウステンボスの敷地には2つホテルがあり、その中の1つの入り口前。
■ 特徴は、業務に多数のロボットを使っていること。通称「変なホテル」と呼んでいる。
- ② ■ ホテルに入ると、正面に荷物預かり所がある。左端に見えるのがロボット。その右がタッチパネル。その右隣にある四角い窓が荷物を入れる場所。
■ 荷物を預けたい人は、タッチパネルを操作し、四角い窓の中に荷物を押し込む。
■ タッチパネルは、セルフのガソリンスタンドにある様な物で、そこに暗唱番号等を入力する。
- ③ ■ 右下に見える黒く四角い場所が、荷物を入れるコンテナを出し入れする所。
■ 画面の左右に写っているのが、コンテナの保管場所。
■ ロボットは、タッチパネルから「荷物を預ける」という指示を受けると、保管場所から、空いているコンテナを引き抜き、右下の、四角い枠に差し込む。
■ 差し込むと、そこが②の荷物預かり所で、荷物を受け取ると、元の場所にコンテナを差し込んで、保管する。
*この荷物は、部屋には届かない。
- ④ ■ チェックイン、チェックアウトは、3体のロボットが対応する。
■ 対応には、基本的にタッチパネルの操作が必要。



- ⑤ ■ フロント、ロビーの全景。
 ■ 3体のロボットは、フロントのカウンター内側に立っている。
 ■ 左のガラス張りの中が、荷物保管場所。



- ⑥ ■ 白い棚に伏せてある「円盤」は、ガラスをふく機械。
 ■ この円盤をガラス面にセットすると、自動でガラス面を拭く。



- ⑦ ■ 地面の真ん中に写っている「小さな物体」は、芝を刈る機械。

⑥

視察感想

- 労働人口が減少するなかでは、ロボットの活用は必然的なものと言えます。
- ハウステンボスのホテルが、ロボットを導入した理由の1つは、佐世保市内で求人をして、人が集まらないから、
 ⑦
 と言うことでした。
- ロボットの活用は、物が価値の製造業ではかなり進んでいます。人へのサービスが価値となるサービス業ではこれからだと言えます。
- 私たちが訪問した日、ホテルのロビーの清掃を、請負業者の方々がしておられました。
 フロアの絨毯は、掃除機を手で前後させて、されていました。かなり時間を要していました。自動掃除機ならば短時間で済みます。しかし、壁の下は手作業が必要となります。
 ロボット掃除にすれば、今の人々が全て不要かといえば、そうではありません。
 ロボットを的確に使う人も必要となります。
- ロボットを使うのは、人手不足の補充だけではなく、労働の生産性を上げることにもあります。
- ハウステンボスのホテルが、ロボットを導入するもう一つの理由がそこにあります。
- 倉吉市としましても、こうした状況を念頭に置きながら、産業及び労働政策を進めていく必要があると実感しました。



平成31年3月26日(火) 13:30~14:30

○ <観光資源の活用>
 於 やまさ海運(株)

視察目的

- 観光資源はどのようにして活用されたのかを学ぶため。

視察経過

- 事務所で、伊達会長及び社長から説明を受けました。
- 長崎港から18キロ沖に、端島(ハシマ)があります。ここには、明治20年から昭和49年まで炭坑がありました。島の形が軍艦に似ていることから通称「軍艦島」と言います。平成27年、世界文化遺産に登録されました
- ここに至るまでには、かなりの時間を要したとのことでした。島は市が保有しています。島の活用については、当初、いわゆる行政の縄張り意識から許可が下りなかったようです。
- 伊達会長は、軍艦島は貴重な観光資源であると考え、平成9年、これを活用した軍艦島周遊クルーズを開始しました。
- 伊達会長を始めとする、こうした民間の努力の積み重ねが、世界文化遺産の登録を生んだといえます。
- さらに次の一手が必要だと、息子さんの伊達社長は軍艦島だけに頼らない長崎港の周辺に存在する明治日本の産業革命遺産や国の史跡である長崎台場跡を活用したヘリテージツーリズムをおこなうため、平成27年に経済産業省の地域資源活用補助金の認定を受けて取組んでおられます。

於 事務所



視察感想

- 一念岩をも通す、といいます。伊達会長の努力に敬意を表します。
- 地域の発展には、こうした熱意が必要であることを実感しました。
- 何かをやろうとすると、行政が足を引っ張る、とよく言われます。その主な理由は、まちづくりについて、行政が目的意識を持っていないことにあります。
- 民間の熱意に、行政の熱意が加われば、まちは大きく発展すると思いました。

平成31年3月27日(水) 9:00~10:30

- <平戸観光応援隊及び市内周遊定期観光バス>
於 平戸市役所

視察目的

- 平戸市観光応援隊及び市内周遊定期観光バスによる観光振興

視察経過

- 世界遺産の候補に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が上がっています。
平戸市にも関連するキリスト教遺産があるのでこれらを活用して、地域の活性化を図りたい、と説明を受けました。
- そのためには、平戸を応援していただくボランティアを育成し、あわせて、地区外の子供たちに平戸に来てもらう仕組みをつくり、平戸に馴染んでもらい将来の平戸応援者になってもらう。
また、市内の観光スポットを周遊するバスを走らせて、観光客の利便性を確保し、観光振興を図りたい、ということでした。

<平戸市観光応援隊>

- 平戸を応援しよう、という人たちの集まりです。
平戸を愛してやまない、平戸に行ってみたい、平戸が好きだ住んでみたい、忘れられない、故郷は平戸だ、日本一だ、と思う人たちが、観光応援隊に登録しておられる。
- この人たちに、平戸を盛り上げていただく、ということです。

<キッズ・ジョブチャレンジ2019in平戸>

- という取組をしておられる。今年で2回目、春休みの3日間、地区外、地区内の5歳から中学3年生の子供たちに平戸市の観光・技術・伝統の仕事体験をしていただく、というものです。
- いわゆる、子どもの職場体験を、春休みに3日間、平戸市内ですというものです。
体験する仕事場は、85か所あります。病院の仕事、建築の仕事、図書館の仕事、酒造の仕事、パン屋さんの仕事、様々あります。
- 参加者は、子ども1人ということはありません。必ず親御さんが付いてきますし兄弟も一緒の場合もあります。
また、日帰りはほとんどありません。参加者の90%が宿泊だそうです。
- 参加した子供たちは、大人になっても、平戸市を忘れないでしょう。

<市内周遊定期観光バス>

- 大型免許保持者が少ないので、9人乗りのマイクロバスで、対応しているとのことでした。

視察感想

- 観光応援隊は、倉吉で活用したい取り組みだと思いました。
- マイクロバスを活用した循環バスは、効果的だと思います。

於 平戸市役所



於 会議室

